

第二六回国民文化祭・京都2011 連句の祭典

市民連句体験会「実作」コーナー

十月二十九日（土） 北野天満宮 境内 特設テント内

十二調「菊日和」の巻 捌 奥村 富久女

待ちし日の今日となりけり菊日和 奥村富久女

座も爽やかにたのしこのとき 高岡 裕子

ふるさとのはらからと月眺めゐて 長尾 信子

だんごほほぼるおほきなほっぺ 船橋真理沙

来年に完成予定スカイツリー 塩見 希望

林立のビル染める夕焼け 小柳 あい

散歩道ふたりの影が伸びていく 新出 奈央

思ひ出してはときめきの日々 真

夜更けまで酒汲みかはす雪の宿 裕

頭痛ながらも出勤の朝 希

見上ぐればらんまんの花あでやかに 奈

天まで高くしやぼん玉とべ あ

満尾

第二六回国民文化祭・京都2011 連句の祭典

市民連句体験会「実作」コーナー

十月二十九日（土） 北野天満宮 境内 特設テント内

十二調「七輪を」の巻

捌 今村 苗

七輪をみんなで囲み秋刀魚焼く

小林 良平

稲穂そよがす風のやわらか

森 雄平

月明かりあなたの帰りじつと待ち

齋藤 真緒

女と二人あらわれた彼

高橋 美咲

ペアルックあったかそうなセーターで

広瀬 香美

源五郎すいと水草かき分けて

さえない作家溜息をつき

弁当を電車に忘れご飯抜き

あきらめ顔の猫がごろにゃん

花の雨浴びて心の洗わるる

空のかなたへ飛べシャボン玉

満尾

美

良

彰子

利枝

平井

中下

大久保風子

緒

雄

雄

雄

雄

雄

雄

第二六回国民文化祭・京都2011 連句の祭典

市民連句体験会「実作」コーナー

十月二十九日(土) 北野天満宮 境内 特設テント内

十二調「学の神」の巻

捌 竹内 茂翁

色葉散る学の神のみそなはず

竹内 茂翁

月満ちるまで努力おしまず

徳江 晶美

初めての連句祭典眠れぬ夜

秦野 詩織

出席すれば単位もらえる

堀 真

白肌も夏が終わればみけ猫に

松本 有美

うちわで隠すはにかむ笑顔

塩田 絢加

届きたい遠くて近い君のもと

上山 歩美

姿見つけてときめく心

晶

寄せ鍋でボデイと気持ちあたためる

真

実家に帰り家族団欒

絢

四年前見上げた花に見送られ

詩

友とみせあう卒業袴

晶

満尾